

開発協力プロジェクトから農大在学生に対する SDGs 啓発イベントの開催報告

東京農業大学 グローバル連携センター

東京農業大学グローバル連携センターでは、開発協力専門委員会が中心となって、農大教員が中心的役割を果たしている開発プロジェクトのうち、4 課題を重点プロジェクトとして位置づけ、農大在学生に対する SDGs 啓発を目指した広報イベントを展開しています。

まずは第一弾として、東京農業大学がカンボジア王国コンポンチャム州農林水産局や環境修復保全機構と共同体を結成して取り組んでいる「農林地における炭素貯留の推進 (Promoting Carbon Capture and Storage on Agricultural and Forest Lands)」の現地セミナーを 8 月 20 日 (金曜日) オンラインで開催しました。

英語で開催された現地セミナーには東京農業大学のみならずカンボジア王立農業大学や共同体からも参加を頂き合計 51 名の出席者を得て、国際ボランティアによるプレゼンテーションの内容を中心に議論が行われました。

開催報告

プロジェクト名： 農林地における炭素貯留の推進 (*Promoting Carbon Capture and Storage on Agricultural and Forest Lands*)

開催日時： 2021 年 8 月 20 日 (金曜日) 12:00~15:25 (日本時間)

実施セミナー： 現地セミナーは 3 部構成で開催され、詳しくは以下の通りである。

(1) コンポンチャム州の農林地における炭素貯留の推進に向けた植林活動の概要説明

主催者の三原から、温室効果ガスによる地球温暖化の実態、植林や有機農業の推進による炭素貯留の意義等、概要説明があった。

(2) 国際ボランティアによるプレゼンテーション (植林活動の展開と課題)

共同体の環境修復保全機構が企画したオンラインによる植林研修 (8 月 4 日から 13 日までの 4 日間) に参加した国際ボランティア 23 名 (日本 11 名 (内 8 名が農大生)、カンボジア 12 名) が 5 グループに分かれ、各グループが選定した課題について英語でプレゼンテーションを行った。課題は “1. Strategies to Increase Number of Participants in Reforestation Activities in Kampong Cham”, “2. Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation”, “3. Promoting of Profitable Tree Plantation in Kampong Cham Province, Cambodia”, “4. Curbing Illegal Logging in Cambodian Reforestation”, “5. Promote Participatory among the Local Community on Sustainable Forest Management”であった。

(3) コンポンチャム州での持続可能な森林管理に向けた課題と今後の活動

国際ボランティアで構成される 5 グループが発表した内容について、コンポンチャム州での持続可能な森林管理を通じた炭素貯留の推進について焦点を当て議論がなされた。現地セミナーに参加した農大生約 20 名からもチャットで質問が寄せられ、国際ボランティアからのみならず、東京農業大学やカンボジア王立農業大学、共同体のコンポンチャム農林水産局と環境修復保全機構の担当者からも回答や解説がなされ、内容の濃い議論を展開できた。



写真 コンボジア国コンポンチャム州での植林活動に基づいた現地セミナーの開催 (2021 年 8 月 20 日)